

新・経済学入門塾の読者の皆様へ

新・経済学入門塾の作成に際しましては、間違いが生じないように多くの方にチェックいただきましたが、残念ながら、下記の間違いがございました。読者の皆様にご不便おかけしたことをお詫び申し上げます。また、間違いをご指摘いただいた方々に御礼申し上げます。なお、増刷時に判明した部分は訂正されております。お手数おかけしますが、よろしくご訂正ください。

2008年6月9日

著者 石川秀樹

< I > マクロ編 (第2版第1刷*)

P : ページ数、L : 行数

*版および刷数は、本の最後から2ページ目をご覧になり、ご確認ください。

● P 2 8 L 2 マルクスは、経済についても独自の理論を作り上げ、経済の基本問題については、市場に任せるのではなく、国家により解決を図るべきだとしています。

→マルクス、資本主義の発展について解明し、いずれ、資本主義は行き詰ると考えました。そして、そのようなマルクスの考えを受け入れた人々の中で、経済の基本問題については、市場に任せるのではなく、国家により解決を図るべきだとの考えが生まれ支持されるようになりました。

● P 5 2 図表 1-18 < B > 「超過需要」 → 「超過供給」

● P 5 9 図表 1-20 < D > 「超過需要」 → 「超過供給」

● P 6 6 L 2 4 要約問題の最後の行 (27) の増加 → (28) の増加

● P 8 2 図表 2-6 の中 固定資本磨耗 → 固定資本減耗 (2つとも)

● P 8 5 下から L 8 $NI \equiv GDI - \text{固定資本}$ → $NI \equiv GNI - \text{固定資本}$ …

● P 8 1 L 1 0 (企業所得) → (法人所得)

● P 9 7 下から L 2 経済方法 → 計算方法

● P 1 0 1 実戦問題 2 選択枝 2 国民総生産とは → 国内総生産とは

● P 1 1 4 図表 3-5 の一番右上の数値 200 → 210

● P 1 2 1 図表 3-14 図表 3-14 $\triangle I$ → 削除

● P 1 2 4 $EF' \rightarrow E'F$

● P 1 6 0 図表 4-11 中 … = 最高の債権価格 → … = 最高の債券価格

● P 1 6 0 図表 4-12 中

資産需要 (L') = $L_1 + L_2$ → 貨幣需要 (L') = $L_1 + L_2 = \dots$

資産需要 (L) = $L_1 + L_2$ → 貨幣需要 (L) = $L_1 + L_2 = \dots$

● P 1 7 6 L 7 第10章の図表 4-7 では → 第10章の図表 4-8 では

● P 1 8 4 図表 4-13 $m = M/R = \dots$ → $m = M/H = \dots$

● P 2 1 0 図表 5-6 点 A' の $Y^S \uparrow < Y^D \uparrow$ → $Y^S < Y^D \uparrow$
($Y^S \uparrow$ の \uparrow を削除)

● P 2 2 1 L 4 当初、貿易市場が均衡する… → 当初、貨幣市場が均衡する…

● P 2 2 2 図表 5-24 の点 D の位置を少し右にずらし、(Y_d, r_c) の点とする。

- P 2 2 4 図表 5-28 $M_1/P_1 \rightarrow M_1/P_0$
- P 2 2 5 L 17 M_0/P_0 から M_1/P_1 へと \rightarrow M_0/P_0 から M_1/P_0 へと
- P 2 2 5 L 23 新しい M_1/P_1 との \rightarrow 新しい M_1/P_0 との
- P 2 2 6 下からL 3, 1 $M_1/P_1 \rightarrow M_1/P_0$
- P 2 2 7 L 6 $M_1/P_1 \rightarrow M_1/P_0$
- P 2 2 7 図表 5-32 $M_1/P_1 \rightarrow M_1/P_0$
- P 2 2 8 L 2, 8 $M_1/P_1 \rightarrow M_1/P_0$

以上、お手数ですが、よろしくご訂正ください。

< I >マクロ編（第2版第4刷、8刷*） P：ページ数、L：行数

*版および刷数は、本の最後から2ページ目をご覧になり、ご確認ください。

- P 2 8 L 2 マルクスは、経済についても独自の理論を作り上げ、経済の基本問題については、市場に任せるのではなく、国家により解決を図るべきだと
- \rightarrow マルクス、経済についても独自の理論を作り上げ、資本主義の発展について解明し、いずれ、資本主義は行き詰ると考えました。そして、そのようなマルクスの考えを受け入れた人々の中で、経済の基本問題については、市場に任せるのではなく、国家により解決を図るべきだとの考えが生まれ支持されるようになりました。
- P 5 2 図表 1-18 < B > 「超過需要」 \rightarrow 「超過供給」
- P 5 9 図表 1-20 < D > 「超過需要」 \rightarrow 「超過供給」
- P 8 1 L 10 (企業所得) \rightarrow (法人所得)
- P 9 7 下からL 2 経済方法 \rightarrow 計算方法
- P 1 1 4 図表 3-5の一番右上の数値 200 \rightarrow 210
- P 1 2 1 図表 3-14 図表 3-14 \triangleleft I \rightarrow 削除
- P 1 2 4 EF' \rightarrow E'F
- P 1 7 6 L 7 第10章の図表 4-7では \rightarrow 第10章の図表 4-8では

以上、お手数ですが、よろしくご訂正ください。

<II>マイクロ編 (第2版第1刷) P: ページ数、L: 行数

*版および刷数は、本の最後から2ページ目をご覧になり、ご確認ください。

- P 9 下からL 7 経済力が苦手→経済学が苦手
- P 4 5 図表2-12 B' (2, 6) → B' (3, 6)
- P 4 5 図表2-12 C' (3, 4) → C' (4, 4)
- P 5 4 図表2-19 「無差別曲線の傾き=予算線の傾き」の下
接点とは限らない → 等しいとは限らない
- P 6 3 下からL 10 当然、 $M0/P_x$ 個から… → $M0/P_y$ 個から…
- P 6 3 下からL 6 当然、 $M0/P_x$ 個から、 $M1/P_y$ 個、 $M2/P_y$ 個と…
→当然、 $M0/P_x$ 個から、 $M1/P_x$ 個、 $M2/P_x$ 個と…
- P 7 0 図表2-34中 所得—消費曲線 → 価格—消費曲線
- P 9 1 L 8 予算線の傾き=—横軸の価格/… → 予算線の傾き=—横軸の
価格/… (マイナス (-) を一つ削除)
- P 1 3 4 下からL 2 供給曲線S a → 供給曲線をS a
- P 1 3 5 L 4 他に企業C, D, E, Fなど → 他に企業C, D, E (Fを削除)
- P 1 3 5 L 7 企業D, E, Fなどの → 企業C, D, Eなどの
- P 1 3 5 L 9 企業C, D, E, Fなど → 他に企業C, D, E (Fを削除)
- P 1 7 9 下からL 2 仮定⑥を削除。なぜなら、仮定②で商品の差別化を仮定している
ので、商品は同質ではなく、需要量を単純に合計して市場需要曲線を導出できないからです。
- P 2 0 2 L 3 図表4-18 → 図表4-20
- P 2 0 2 「落とし穴」L 2 図表4-18 → 図表4-20
- P 2 0 9 実戦問題3の利得表
企業Bの右側を「生産量を抑制」→「生産量を抑制しない」
企業Aの下段を「生産量を抑制」→「生産量を抑制しない」
- P 2 4 0 L 1 4 横足し合わせたものなので、→ 横に足し合わせたものなので、
- P 2 4 2 図表6-10 課税後の政府余剰(税金) AFE'A ↑ → AFE'A' ↑
- P 1 9 7 L 3 そのとき、Bと利得 → そのとき、Bの利得

以上、お手数ですが、よろしくご訂正ください。

<II>マイクロ編 (第2版第4刷) P: ページ数、L: 行数

*版および刷数は、本の最後から2ページ目をご覧になり、ご確認ください。

- 現在のところ、発見された訂正箇所はございません。

<Ⅲ>上級マクロ (第2版第1刷) P: ページ数、L: 行数

*版および刷数は、本の最後から2ページ目をご覧になり、ご確認ください。

- 目次P14 図表3-27 → 図表3-29
- 本文P13 L10 4年間で24.6%も → 4年間で24.4%も
- P21 L20 「95年1.9%→96年2.6%」 → 「95年2.0%→96年2.7%」
- P21 下からL5 GDP成長率0.4% → 0.2%
- P25 L18 また、本書の第1章の → 本書の第1部
- P47 L6 所得弾力性が大きい → 所得弾力性が小さい
- P48 L4 LM₂は点Gから → 点E
- P63 L23 預金準備比率 → 支払準備率
- P75図表4-2の中 2行目の「サービス収支」の右側のカッコを削除
- P101図表4-15 資本流出 BP>0 → 資本流入 BP>0
- P108図表4-19 IS-LM右シフト① → LM右シフト (ISを削除)
- P112図表4-21 ハイパワードマネー現象 → ハイパワードマネー減少
- P113図表4-22 ハイパワードマネー現象 → ハイパワードマネー減少
- P132最終行 限界価値曲線 → 限界生産物曲線
- P134 図表5-12タイトル 限界生産物曲線と労働需要曲線 → 限界生産物価値曲線
- P137 図表5-14 縦軸のMLP → MPL
- P144 図表6-1中 <AS-AS分析> → <AD-AS分析>
- P207図表9-5 投資の限界理論>利子率 → 投資の限界効率>利子率
- P218 L17 キックランドと → キッドランドと
- P221図表10-3タイトル 国債発行による → 公債発行による
- p224 L8 と国民所得の増加分と → と国民所得の減少分と
- P273図表10-3 (再掲) タイトル 国債発行による → 公債発行による

以上、お手数ですが、よろしくご訂正ください。

<Ⅲ>上級マクロ (第2版第3刷) P: ページ数、L: 行数

*版および刷数は、本の最後から2ページ目をご覧になり、ご確認ください。

- P218 L17 キックランドと → キッドランドと
- p224 L8 と国民所得の増加分と → と国民所得の減少分と

以上、お手数ですが、よろしくご訂正ください。

<IV>上級ミクロ (第2版第1刷) P : ページ数、L : 行数

*版および刷数は、本の最後から2ページ目をご覧になり、ご確認ください。

(2008年6月9日掲示)

- P 1 7 L 7 図表 1-9 → 図表 1-11
- P 1 8 最終行から P 1 9 L 1 図表 1-11 → 図表 1-13
- P 2 1 図表 2-1 の中 限界生産力 : M L P → 限界生産力 : M P L
- P 2 9 下から L 6 図表 2-9 → 図表 2-10
- P 3 2 図表 2-10 の中 B' (2, 6) → B' (3, 6)
- P 3 2 図表 2-10 の中 C' (3, 4) → C' (4, 4)
- P 3 4 下から L 9 点 C → 点 F
- P 7 3 L 1 8 独占企業は → 独占的競争企業は
- P 9 0 下から L 7 公共財も、完全競争市場のときの → 公共財も、私的財のときの
- P 1 1 5 下から L 9 費用が大きい → 費用が小さい
- P 1 1 6 L 2 4 bの限界費用 b → Bの限界費用 b
- P 1 2 1 下から L 5 排出税を得る → 排出権を得る
- P 1 2 3 図表 7-5 中 「余剰の損失」の網掛け部分を E F E'のすべてへ
- P 1 2 7 L 1 2 (第3位の中国、 → (第2位の中国
- P 1 6 4 図表 9-2 B 国 (輸出国) 国際価格 P1 はある水準に与えられる → 削除
- P 1 7 3 図表 9-10 の中 「輸出量」と「輸入量」を入れ替え

以上、お手数ですが、よろしくご訂正ください。

<IV>上級ミクロ (第2版第3刷) P : ページ数、L : 行数

*版および刷数は、本の最後から2ページ目をご覧になり、ご確認ください。

- P 7 3 L 1 8 独占企業は → 独占的競争企業は
- P 9 0 下から L 7 公共財も、完全競争市場のときの → 公共財も、私的財のときの
- P 1 2 1 下から L 5 排出税を得る → 排出権を得る

以上、お手数ですが、よろしくご訂正ください。